

## クラフト農業懇談会 第1回 議事録

開催日時 平成21年7月8日(水) 午後7時30分～9時10分

開催場所 笠間市役所 本所 2階 大会議室

参加者 生産者及び組織代表 9人

執行部 市長ほか5名

オブザーバー JA 茨城中央職員3名

### 懇談会の内容

- ・ 市長あいさつ
- ・ クラフト農業プロジェクトについて
- ・ 市長と出席者との意見交換

### 意見交換のテーマ

- ① 担い手・後継者対策について
  - A. 担い手・後継者対策の方針及び具体策
  - B. 集落営農組織への法人化に向けた支援
  - C. シルバー人材センターによる援農サポート
- ② 基盤整備について(土地改良含む)
  - A. 畑地等の地力維持増進のための土づくり(堆肥生産還元)について
- ③ 耕作放棄地、その他
  - A. 転作についての取り組み
  - B. 農業関係補助事業等の情報提供
  - C. 農業者の待遇改善及び保障について

### 意見交換の内容

- ① 担い手・後継者対策について
  - A. 担い手・後継者対策の方針及び具体策

#### 【意見等1】

担い手・後継者対策として市の方針を伺いたい。担い手を育成するためには条件がいろいろあると思うがどのように行うのか考えをお聞きしたい。

#### 【回答1】

就農にも、農家の跡取りと新規就農の2種類があります。特に新規就農については相談件数も多く窓口で相談等対応を行っています。就農にあたってどのような考えで何を作りたいのか。また、資金面はどの程度か、農業技術の習得や研修先として農業大学の講座や農業法人等の情報を紹介しています。また、笠間地域就農支援協議会による就農相談窓口の開設や就農支援アドバイザーと関係機関とが一体となって担い手の確保・育成を進める考えです。

#### 【意見等2】

話はわかったが、経済面が伴わない、生活できる経営ができるのか？ 生活面の保障があれば別だが、耕作する土地についても耕作放棄地の利用についても含めて考えるべきである。

#### 【回答2】

担い手支援については、考え方としては、専業農家に厚みを加えることが大事であると考えています。最近新規就農についての問い合わせやそれらの話題は多いのですが、本気なのか趣味なのか温度差があります。経営として農業を行うには、それなりのリスクを背負って経営計画を立てるべきであり、本格的に農業経営をしたい人への支援をすべきであると考えています。

また、農林振興公社において、新たに農業を始める人向けのニューファーマー育成事業や就農するために必要な資金を無利子で融資する事業があります。窓口を一本化して、こういった情報の提供が必要であると考えています。

笠間の統計からわかるように、農家数は多いが農業産出額が低く、儲かってない状況にあります。農業経営によって高収入が得られれば後継者や担い手もおのずと育つのではと思っています。

### 【意見等3】

やる気のある人にはいろいろな情報を提供してほしい。ただ、1年2年ではなかなか経営としては成り立たないと思う。特に新規就農者の場合は研修先として農業法人等の紹介をしてあげればいいのか。

## B. 集落営農組織への法人化に向けた支援

### 【意見等1】

現在取り組んでいる集落営農をステップアップし法人化に向けた支援をお願いしたい。集落営農こそ農地の集積や担い手の確保育成につながる。ただ、法人化するためには会計処理や経理事務を行う人材の育成などクリアしなければならない問題がある。

### 【意見等2】

法人化すれば会社と同じように自立しなければならない。税金などのノウハウ、税理士や会計士的な知識がなければ成り立たない。JAや市がバックアップして経理処理機関的なものを共同設置できればと思う。ただ現状問題点の把握が必要であり、簡単には法人化はできない。

### 【意見等3】

農家の納税と法人の場合はまったく違う。法人の簿記指導ができないのが現状。市の職員もなれてくると人事異動で他の課に移ってしまう。専門で取り組める体制が必要。

### 【意見等4】

集落営農がうまくいけばおのずと就農者も増える。

### 【回答】

集落営農の法人化への支援については、わかりました。来年に向けて、法人化についての対策、JA・市・水田農業推進協議会において体制づくりをすべきと考えます。

## C. シルバー人材センターによる援農サポート

### 【意見等1】

経営としては土地利用による集落営農型と個別の家族経営型とがある。特に家族経営の場合は労働力が足りないし必要としている。市のシルバー人材センターによる援農サポート制度等考えはあるのか？ 個人が規模拡大する上では必要である。

### 【意見等2】

ブドウ栽培としても袋かけなど簡単な作業がある、個人経営者としては、そういった労力がほしい。

### 【回答1・2】

シルバー人材では農業としては請け負えない規定になっていますが、援農支援についてシルバー人材センターに相談してみます。

### 【意見等3】

JAにおいても作業オペレーター等、人材派遣について考えていただきたい。

### 【回答:JA】

県内の優良事例等を参考にしながら検討したいと思います。

## ② 基盤整備について(土地改良含む)

### A. 畑地等の地力維持増進のための土づくり(堆肥生産還元)について

#### 【意見等1】

小原畑地帯総合整備事業により整備した畑地は地力が低く維持するのが難しい。やはりその場所に適した作物を作るうえで土作りが一番大事である。畜産農家の家畜の排泄物を利用した堆肥の生産還元が必要と考える。

#### 【回答1】

耕畜連携による良質堆肥の生産還元と流通体制の構築までを視野に入れた取り組みを、年月をかけて行うことになっています。すでに土づくり推進協議会を設置しており、本年度は市内畜産農家の堆肥の生産状況や成分分析などを行う予定となっています。また、堆肥小屋塔の施設については既存の畜産農家が整備した施設の最大限有効活用を考えています。

## 【意見等2】

耕種農家へも堆肥舎がほしい。畑地にあった良質の堆肥にするために、落ち葉などいろいろな成分を混ぜ合わせる必要がある、そのためのストックヤードとして使用したい。

## 【回答2】

今回、国の補正予算（経済危機対策臨時交付金）で農地有効利用支援整備事業（2千万円）、JAの飼料稲生産の機械購入のための援助を行います。

農地有効利用支援整備事業についてですが、各土地改良区の要望を取りまとめ、茨城県土地改良団体連合会において国へ提出しています。なお、この結果について、国からの内示を受けてから対応します。

## ③ 耕作放棄地、その他

### A. 転作についての取り組み

#### 【意見等1】

転作について集落で取り組んでいる。足りない分を加工米で対応いただいているが、お願いに行くとなかなかいい返事がもらえない。友部地区は達成しているが全体で達成していない。市として未達成では今後配分の増える懸念がありスムーズに推進できない状況にある、市は転作についてどのように考えているのか？ 市として必ず100%達成をお願いしたい。

#### 【回答1】

市として転作については、当然100%目指して推進しています。しかし、達成していないのが現状です。ただ、年々徐々にではあるが上がってきています。3年前90%であったものが93%になりH20年度は95.4%までに推移しています。これからもしっかり推進していきます。また、今年度は新しく飼料米3ha、稲で22ha取り組んでいきます。

#### 【意見等2】

飼料用米は、十分に推進する上で期待できる作物である。

### B. 農業関係補助事業等の情報提供

#### 【意見等】

農業関係の補助金はいろいろあるが、そういった情報が農業者に伝わらない現状にある。最近においては国の経済対策関連で農業支援の事業があり、7月15日の申請締め切りであるという情報を、県外のハウスメーカーから入手した。こういった情報を、特に認定農業者などにはいち早く提供していただきたい。ぜひ、こういった情報提供できる体制を整備してほしい。

#### 【回答】

国の補助事業についてはこれまでの国・県・市町村の流れから、国から市の担い手協議会を通し農家に支払われるものや直接法人に情報が流れる仕組みとなってきました。市においても、これらの情報は入っていますし、当然、なんらかの形で情報提供をしないといけないと考えます。ただ、募集期間が数週間だとか、メニューのページ数が数百ページある場合もあり、すべてを認定農業者へ提供するというのはなかなか困難な面もあります。メールやファックスなどによる配信方法等、今後早急に対応できる体制を整えたいと思います。

### C. 農業者の待遇改善及び保障について

#### 【意見等】

後継者や担い手の問題はもちろんであるが、農業者は農業を辞めても退職金もない、まったく保障制度がない待遇の改善が必要。